

# 成田国際空港デジタルサイネージシステム(システムインテグレーション)

## Narita International Airport Digital Signage System

成田国際空港向けデジタルサイネージシステムは、2012年6月から全面供用を開始したシステムである。

デジタルサイネージは“電子看板”の意味で、利用客の目に触れる部分に案内情報や企業広告を効果的に表示する。このシステムでは、世界初<sup>(\*)</sup>の設置となる凹型有機EL (Electro-Luminescence) 表示装置や46型27面液晶マルチ大画面表示装置等、合計100台336面の表示装置をターミナルの各所に配置し、ニュースや広告の表示のほか、利用客を楽しませる空間演出コンテンツをタイムリーに提供している。

このシステムは、“センター設備”“端末設備”“伝送設備”“監視設備”で構成している(図1)。

データは“センター設備”の配信管理サーバで一元管理し、1日分のコンテンツ情報は映像コンテンツ配信システム“MEDIAWAY”によって各端末に配信している。また、ニュース、天気、到着機情報や現場のストリーミング映像をリアルタイムで配信することができる。

“端末設備”の表示装置は、設置場所と利用客の動線を考慮しながら周囲に馴染(なじ)む筐体(きょうたい)デザインとした。空港ターミナル入口には、コンパクトな55型縦型液晶ディスプレイの表示装置を設置し、全ての利用客に向けて空港からの情報を網羅的に発信できるようにした。保安検査場前や出発ロビーには、複数の46型液晶マルチ大画面(最大27面)を1台の表示装置に見立て、インパクトのあるコンテンツや広告の提供を行っている。店舗エリアは多くのテナントが存在することから、エリア入口付近にタッチパネル表示装置を設置した。会話式の情報提供を行うことで、利用客が必要とする情報を即時に入手することができる。

“伝送設備”は、各設備間を光ネットワークの専用回線で構築した。一定の帯域を常時確保することで、ストリーミング映像のリアルタイム送信を可能にしている。

“監視設備”では、運用者のいる編集室内に監視端末装置などを設置し、各所に設置された表示装置の内容を、運用者が実際に現場まで行くことなく確認することができる。

このシステムの特徴を次にまとめる。

- (1) 世界初の設置となる凹型有機EL表示装置
- (2) 大画面液晶表示装置
  - ①46型27面液晶マルチ大画面((縦)1.7×(横)9.2(m), 370型相当)を始め、設置環境にあわせ、16面、12面、8面、4面のマルチ画面表示装置を設置
  - ②ユニバーサルデザイン対応の42型タッチパネル液晶ディスプレイを利用客の多い店舗エリアに設置
  - ③55型縦型液晶ディスプレイを電車やバスなどの全ての利用客に認識してもらえるようにするため、ターミナル入口各所に設置
- (3) 映像コンテンツ配信システム“MEDIAWAY”

フルHD(High-Definition)映像を含めた情報を合計100台336面へ一括配信、個別制御が可能。また、災害時には、番組途中でも緊急情報へ迅速に切り換えることが可能。



図2. 46型27面液晶マルチディスプレイ

\*1 2012年6月26日現在、当社調べ

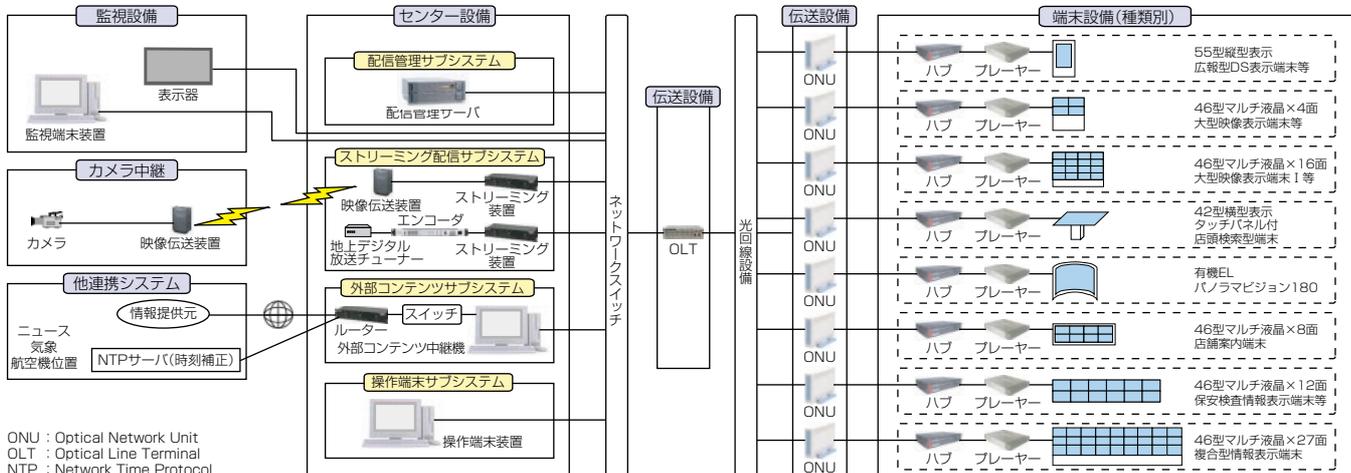


図1. デジタルサイネージシステムの構成

## ネットワークインフラ性能情報“見える化”システム“Shinzy plus”

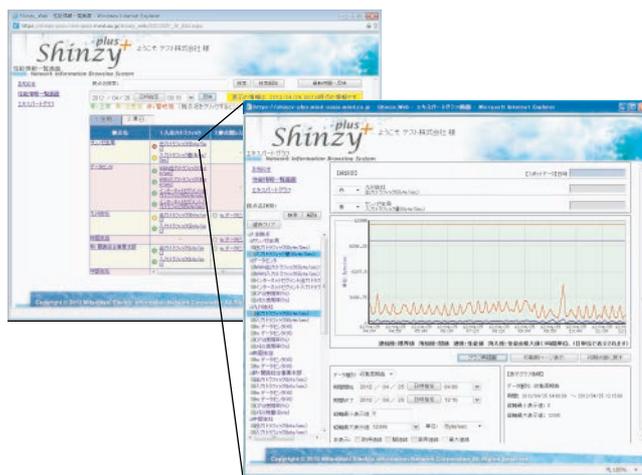
### “Shinzy plus” : System for Providing Reliable Information of Network Performance

三菱電機情報ネットワーク㈱(ＭＩＮＤ)では、広域ネットワークサービスを利用する顧客を対象として“MIND-Shinzy”システムではトラフィックの性能情報を、“MIND-RooQシステム”では通信レスポンスの性能情報をグラフ表示する機能をそれぞれ提供してきた。しかし複数のシステムを操作するのは煩雑なため、これらの2つのシステムを統合し、さらに、新機能を追加した“Shinzy plus”システムを開発した。

“Shinzy plus”では、新機能の一つとして、ネットワーク全体のトラフィック及び通信レスポンスの性能情報をアイコンを用い一覧形式で表示する機能を提供している。これによって従来よりもネットワークの状態を簡便に把握することが可能となった。また、海外顧客による利用も配慮し英語表記にも対応したシステムとしている。

今後、顧客からのネットワークコストと性能とのバランスの要求に応えるためのSE支援機能の追加、及び“見える化”の対象にサーバのCPUなどの性能情報を加える機能拡

張を予定している。これらの機能拡張によって、ネットワークインフラを構成する様々な機器の性能情報を更に“見える化”し、付加価値の高い情報を提供していく。



性能情報一覧画面及び入出力トラフィック量のグラフ表示

## 顧客拠点の複数サーバ向け“統合リモートバックアップサービス”

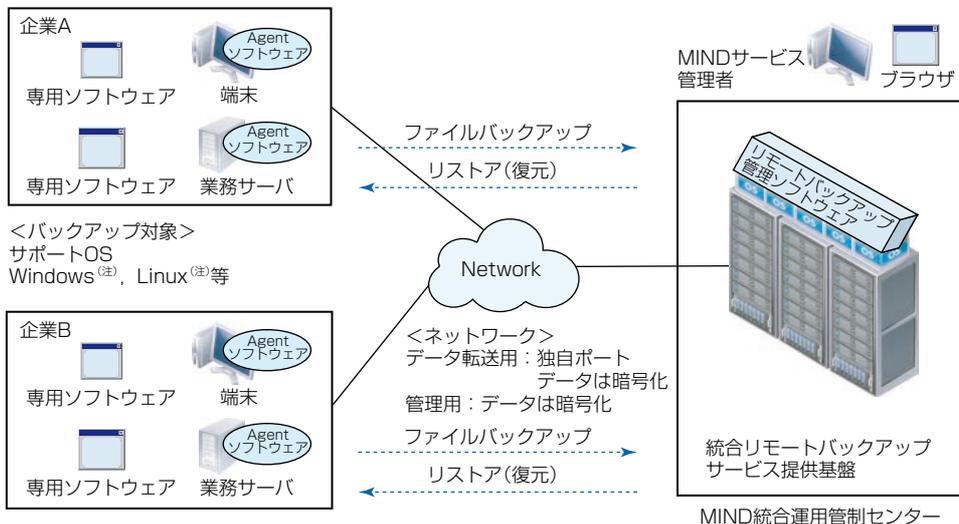
### Integrated Remote Backup Service for Servers at Customers' Sites

“統合リモートバックアップサービス”は、三菱電機情報ネットワーク㈱(ＭＩＮＤ)が提供するインターネットデータセンター(iDC)に、顧客拠点に設置された複数サーバのデータをネットワーク経由でバックアップするサービスである。顧客拠点設置サーバの各種オペレーティングシステム(OS)に対応しており、複数OSバージョンが混在している

顧客もこのサービスを利用することができる。取得するバックアップデータはブロックに細分化し圧縮と重複除外(既に取得済みの同一ブロックの除外)によって、従来のバックアップ方式と比較し大幅にデータ容量が削減でき比較的低速なネットワークにも対応可能である。

このサービスはMIND統合運用管制センター(ICC)で24時間365日監視しており、

顧客はこのサービスを利用し、堅牢(けんろう)なMIND iDCにバックアップデータを保管することで、顧客拠点のバックアップ設備の保有・運用業務が不要になるとともに、顧客拠点の災害や事故等に対するBCP(Business Continuity Plan: 事業継続計画)対策を実現できる。



統合リモートバックアップサービス